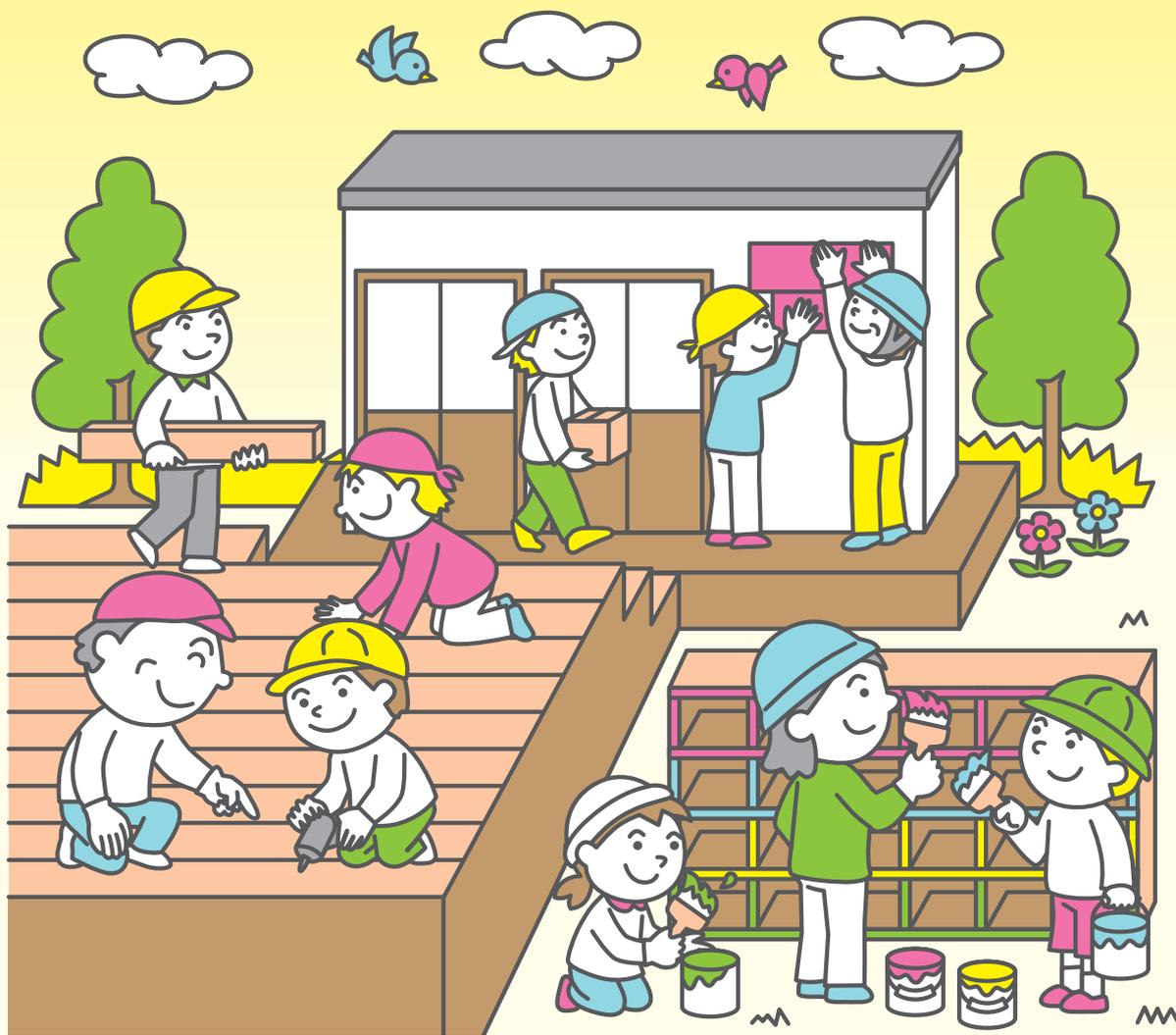


ヨコハマ市民まち普請事業

# 整備事例集 vol.12

●●● 平成 29 年度整備事例集

私たちのまちを 私たちでつくる  
きっとまちが好きになる



ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。

「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることにつながっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/machibushin/>

Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。

<https://www.facebook.com/yokohama.machibushin>

Webで検索

Webで検索

## 横浜市地域まちづくり推進委員会

### ヨコハマ市民まち普請事業部会委員【28年度選考委員】(五十音順)

※所属は平成31年2月現在

岡本 溢子	市民委員 (公募)
河上 牧子	明治大学地域ガバナンス研究所客員研究員 (都市政策)
塩入 廣中	市民委員 (公募)
菅 博嗣	株式会社あいランドスケープ研究所代表取締役 (花とみどり・公園緑地)
杉崎 和久	法政大学法学部教授 (公共政策)
鈴木やよい	NPO 法人横浜市民アクト理事 (まちづくり)
早田 幸	早稲田大学社会科学総合学院教授 (協働による都市・住民・コミュニティづくり)
西田由紀子	よこはま市民メセナ協会会長 (まちづくり・市民活動)



ヨコハマ市民まち普請事業

## 整備事例集 vol.12

平成29年度整備事例集

# CONTENTS

P.2 事業のあらまし

P.3 平成28年度の事業の流れ

P.4 整備事例 ①地域のインテリジェンス「ぶらっと谷矢部」づくり (戸塚区)

P.6 整備事例 ②上星川の「ひと」「まち」「こと」のふれあい広場 (保土ケ谷区)

## 事業のあらまし

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく支援策の一つとして、平成17年4月に始まり、30年4月で14年目を迎えました。

この「ヨコハマ市民まち普請事業」は、市民の発意とアイデアによる地域課題の解決や魅力向上に資する施設(ハード)を、身近な地域の公共空間や私有地などに整備する提案を募集し、二段階の公開コンテストにより選考された提案に対して次年度に最大500万円の整備助成金を交付する事業です。整備場所又はその近くの在住者、事業者又は土地・建物の所有者等の3人以上のグループであれば、どなたでも応募することができます。18年度から整備が始まり、29年度までに47か所が整備され、地域の皆さんのまちづくりの夢が実現し

ました。

今回は28年度に選考され、29年度に整備を行った2か所をご紹介します。28年度に実施した一次コンテストでは、14件の応募があり、このうち6件が選考されました。そして二次コンテストにおいて、3提案が整備助成対象に選考されました。

この事例集では、このうち2つの提案について、応募に至った経緯、グループのメンバーや地域の方々がコンテストに臨むまでに積み重ねてきた試行錯誤や工夫の様子、実際に整備を行う中で生まれた地域での新たなコミュニティや完成した施設のことなどを紹介します。

自分たちのまちへの思いを自ら考えつくりあげ「かたち」にしていく「ヨコハマ市民まち普請事業」。次は皆さんのまちで取り組んでみませんか。

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、日本都市計画学会賞の平成26年度「石川賞」を受賞した事業です。

「石川賞」は都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体を対象としている賞です。

「ヨコハマ市民まち普請事業」の授賞理由では、「物的な再生だけでなく、人と人とのつながりの再生も育まれるなど、市民主体の都市計画を体現するものとして大きな成果を挙げている」点を評価していただきました。

# 平成28年度の事業の流れ



地域のインテリジェンス「ぷらっと谷矢部」づくり(戸塚区)  
 ↳地域の公園にできた「つながり」と「理想」のコミュニティ結束拠点↳



「ぷらっと 谷矢部」の看板は近隣の住民の方が手彫りでつくったもの。

「ぷらっと谷矢部」は、横浜市営地下鉄ブルーライン踊場駅から徒歩約10分の戸塚区矢部町にある谷矢部池公園の中にあります。谷矢部池公園は、池や樹林地、湧き水を利用したせせらぎ、竹林などの豊かな自然と、多目的グラウンドや複合遊具が整備され、多くの方々に親しまれている公園です。

しかし、過去には公園内の樹林地や池などの手入れが行き届かなくなり、放置状態になっていたこともありました。そこで、公園愛護会や近隣小学校PTAのOB・OG等で組織された地域と学校をつなぐ「わかぎの会」、自治会・町内会などの活躍によってこの自然が守られ、さらには園内で「竹灯籠のタペ」や「生き物の観察会」を開催するなど、魅力的な公園づくりの活動が続けられてきました。

様々な団体が公園で活動するため、利用調整やイベント開催の会議をすることが多くありましたが、



拠点ができただけで、地域の方々がゆっくりと談笑する機会も増えている。

公園内にはこれらの団体が一堂に集まれる場所がなく、個人宅や町内会館、小学校の図書館を借りて会議をしていました。時には屋外で話し合いをすることもあり、その



子ども向けの工作クラブの他にも、手作り教室などを定期的に開催。

ような状況の中で「雨風がしのげ  
て、みんなが集まることのできる場  
所があるといいね」という意見が  
出ていました。そこで、公園愛護  
会が中心となり「三ノハマ市民まち  
普請事業」に応募することとなり  
ました。

一次コンテストに向けては、過去  
にまち普請で公園内に施設を整備  
した場所の現地に行ったり、地域  
の方々から声をかけて、一緒に夢を  
語りながら発表用の資料を作った

り、自由研究の発表会に参加する  
ようにわくわくしながらコンテスト  
に臨んだそうです。

二次コンテストに向けては、近隣  
住民へのアンケートや、近隣小学  
校と連携して、授業で子どもたち  
に「公園をどんな場所にしたいか」  
「拠点で何をしたいか」を考えても  
らうワークショップを開いたりしな  
がらイメージをまとめていきまし  
た。また、活動懇談会や企業マッ  
チング会などを通じて、まち普請  
の先輩グループや建設会社から経  
験に基づいた意見や現実性を高め  
るアドバイスをもらうことができま  
した。それらを簡潔にまとめて申請  
書に落とし込むことはかなり大変  
だったそうですが、その甲斐もあ  
り見事二次コンテストを通過しま  
した。

整備にあたっては、まち普請での  
活動を通じて知り合った建設会社  
から整備への協力が得られたり、  
また、公園での活動が縁で知り合っ  
た団体からは、棚や机、椅子を譲  
り受け、子どもたちと一緒に色を  
塗って再利用するなど、建物の中  
は、地域の方々の寄付や手作りの  
ものであふれています。

公園愛護会の現会長であり、施  
設の管理・運営のために新たに立  
ち上げた「特定非営利活動法人ぷ  
らっと」代表理事の浦島さんは「一  
次コンテストの時には夢を語って  
いたことが、二次コンテストに向け  
て、いざ現実的な計画を立てていくと  
『今は難しい』というものが見えて  
きます。そこで無理にでも理想を  
完遂するのではなく、柔軟さが大  
事だと思います。」とおっしゃいます。

実際に拠点ができたことで、近  
所の人たちとも会う機会や話す機  
会が増え、子どもたちも含めて「こ  
こにすれば誰かがいる」という場所  
になってきています。また、「こん  
なことができるのでは？」という声  
も地域の方から上がってきていま  
す。公園の利用調整もスムーズに  
なり、これまで各利用者と個別に  
話していたのが、「みんな」で話す  
ことができるようになりました。さ  
らに、みんなで色々とアイデアを出  
し合って、それぞれが自ら行動する  
ようになったそうです。

そうやって理想の場所、理想の地  
域を描きながら少しずつ歩みを進  
める谷矢部池公園での取組を体感  
しにぜひ足を運んでみてください。



地域のインテリジェンス「ぷらっと谷矢部」づくり(戸塚区)  
整備主体…谷矢部池公園愛護会  
整備場所…戸塚区矢部町 谷矢部池公園  
整備内容…交流拠点(作業スペース・ギヤラ  
リースベース等)  
協力企業…大洋建設株式会社  
竣工時期…平成30年3月



棚や椅子などの備品は、寄贈品を子どもたちと一緒に色を塗る  
などして活用している。

# 上星川の「ひと」「まち」「まじり」のふれあい広場(保土ヶ谷区)

心の温かさが伝わる距離を取り戻そう。まちの新たなふれあいの装置



新築のビルの屋上に木製のデッキを備えた「そらとやねの広場」(右上)と、コンクリートとのコントラストが映える屋外階段(左)を整備。夜にはライトアップもされる。(右下)

相鉄線上星川駅前の商店街を中心に、地域づくりの活動を行う FM 上星川の取組は、代表の天野さんが平成26年に上星川の新しい住人になったことをきっかけに動き出します。「昭和の雰囲気がいい」と思っていた駅前商店街の一面に事務所兼店舗を構えました。

そこに声をかけたのが、駅前にある企業の地域貢献担当の従業員の方でした。この担当者との出会いから商店街をもっと盛り上げようという地域づくりが動き出します。さらに、縁があった建築家がメンバーに加わり、平成27年12月からいよいよ FM 上星川としての活動がスタートしました。

てを食べられるパン屋があるといいよね。」という話があり、パン屋を誘致する活動が動き出しました。「上星川商店街が生活圏内の人に来て欲しい」という思いから、あえて貼り紙でパン屋の募集をしたところ、ひと月の間に二人の応募があったそうです。またその間にパン屋に対する住民ニーズを探るために、シールアンケートを行ったところ、3週間で1,000票以上の賛同が集まり、2か月後には誘致が決まりました。

パン屋は、商店街関係者の協力を得て新築されるビルに入ることになります。より地域の活性化につなげようと、大学の学生たちも加わり、建物の活用について検討を進めていきました。そこで見えてきたのは、新たにできるパン屋にはイートインスペースの設置は難しく、加えて商店街にはミニ広場がないため、焼きたてのパンを食べながら、ゆっくりできる場が必要ということでした。



木製デッキの天板は子どもも含めた地域住民が張った。

また、地域には子育て世代が過ごせるような、多世代が混じり合う場がないことも地域の課題として分かりました。

そんな中、学生から『ヨコハマ市民まち普請事業』に応募してみたい」という声があり、「まち普請」への挑戦を決めます。新築ビルの屋上に、地域の方が気軽に立ち寄ることができる屋上広場の整備を提案内



日常的に施設を開放していることに加えて、子育て世代や子どもたち向けのイベントなどでも活用している。

容にして一次コンテストに応募しました。  
しかし、一次コンテストはギリギリでの通過。「若い世代の勢いだけでは難しい」と気付いた皆さんは、

二次コンテストに向けて「今できることは全部やろう」と、近隣の町内会を訪問したり、地域の行事などにもできるだけ参加したり、また小学校の授業に参加するなどし

て、地域住民の声を集めていきました。「まだ無い建物のイメージを伝えることに苦労した」と天野さん。懸命に地域で人の輪を広げるために活動した結果、二次コンテストで整備対象に選ばれます。

コンテスト後も、上星川を活性化すべく、毎月ミーティングを行い、プロジェクトの賛同者もどんどん増えていきました。また、メンバーの大学生が上星川の情報紙「かみほしかわらばん」をつくるなど、地域の情報発信も行いました。

整備にあたっては、商店街のDIY専門家や看板屋さんに協力してもらい、地域住民や学生も参加してウッドデッキを作るワークショップも行い、平成30年3月に完成。オープン後は、1階のパン屋さんの開いている時間に合わせて屋上を地域に開放しています。午前中は未就学児の親子連れが利用し、放課後になると小学生たちが商店街のお店で駄菓子やパンを買って屋上で過ごしている姿が見られます。

「整備をしたことで、あの場所がまちの核になってきた」と天野さんはおっしゃいます。これまで家と駅、家と学校を行き来するだけだった人

の流れから、屋上に立ち寄る新たな人の流れが生まれています。また商店街では保育園・医療機関も誘致できたため、商店街の会員も増え、地域で新たな雇用が生まれているとのこと。

天野さんは「根を張ることが重要」、そして自ら根を張り「昔は商店街や地域にあった、心の温かさが伝わる距離を取り戻したい」と言います。整備箇所がどのように活かされていくのが、FM上星川さんの活動から今後も目が離せません。



上星川の「ひと」まち「こころ」のふれあい広場(保土ヶ谷区)  
整備主体：FM上星川  
整備場所：保土ヶ谷区上星川三丁目  
整備内容：屋上交流広場(建具・ウッドデッキ、シンク等)  
竣工時期：平成30年3月

ヨコハマ市民まち普請事業

# 整備事例集 vol.12

平成 29 年度整備事例集

- 発行 平成 31 年 2 月  
横浜市都市整備局地域まちづくり課  
〒231-0017 横浜市中区港町 1-1 TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
- 編集・デザイン 特定非営利活動法人 アクションポート横浜
- デザイン・印刷 株式会社野毛印刷社

ヨコハマ人・まち  
-まちの人がまちをつくる-

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ人・まち」を読みませんか？

メールマガジンについてはホームページをご覧ください。

ヨコハマ 人・まち

検索

